

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高大接続改革の中で、高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。
  - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
  - ・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
  - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。
- 「リーディング」、「リスニング」ともに、共通テストの問題のレベルは、出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例、言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるよう、引き続き、CEFRの概ねA1～B1レベルを目安として問題のテキスト、使用する語彙、タスクなどを設定し、問題を作成することとする。
- 「リーディング」の表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」の音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。また、読み上げ回数については、1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和8年度共通テストでは、令和7年度の問題構成を踏襲し、設問数は33、解答数は44、本文と設問及び選択肢を合わせた総語数は約5,600語となった。各大問の出題意図は以下のとおりである。

第1問	簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれているテキストを読み、情報を理解する力を測る。ここでは修学旅行先での二つの旅程計画を読み比べる。
第2問	簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれている文章を読み、その概要や要点を把握したり、推測したり、また、事実と意見を整理しながら情報を読み取ったりする力を測る。ここでは、イギリスの大学が提供しているレンタル自転車のサービス終了に関する案内と、それに対する学生のコメントを読む。

第3問	平易な英語で書かれたごく短い物語文を読み、概要・展開を把握する力を問う。ここでは、海上のプラスチックを食べるプラスチックで出来た魚が誕生したことをきっかけに、環境問題に対する意識が高まったという内容の文章を読む。
第4問	英語の授業において文章を作成する過程で、自分が書いた原稿に対する教師のコメントを踏まえて、読み手に分かりやすいように文章の論理の構成や展開に配慮して文章を修正する力を問う。ここでは、推敲することを前提に「音楽の効果」(positive impact of music)に関する作文の原稿を読む。
第5問	平易な英語で書かれた複数の文章等を比較しながら、必要な情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を理解する力を問う。ここでは、イギリスからの留学生とのメールによるやり取りと、日本における落とし物の扱いについて書かれたブログ記事を読む。
第6問	平易な英語で書かれた物語文を読み、その概要を把握する力を問う。ここでは、20代の若者が、ヨガ教室や会社での経験を通して自分自身を見つめ直す様子を描いた物語を読む。
第7問	日常的、社会的な話題に関する文章を読み、概要を把握し、情報を整理する能力や論理展開を把握する能力を測る。ここでは、蚊の生息数を抑制する技術に関する記事を読む。
第8問	社会的な問題に関して異なる意見が書かれた複数の資料を読んで理解した上で、自分のとる立場を支持する資料を見極め、作文のアウトラインを作成するために様々な資料から情報を得る力を問う。ここでは、公職選挙におけるオンライン投票の是非についての資料を読む。

本年度の『英語（リーディング）』の追・再試験は、難易度等の観点から、おおむね適切なレベルであったと言える。また、試験の信頼性や、識別力も高く、全体的にバランスのとれた標準的な問題であった。各問題の解答結果について以下に詳細を述べる。

第1問は三つの設問とも比較的容易に解答でき、最初の大問としては適切な難易度であった。問3については、示される二つのツアーの共通項を読み取る問題であったことから、他の設問と比べて深い読みを求められる問いであった。

第2問は、大学からの案内とそれに対する学生の意見を読み取る問題であった。問3については、選択肢に示される意見と事実を区別した上で、本文の情報と照らし合わせる必要があり、他の問いと比べてやや難しかったと考えられる。

第3問は架空の物語文を読む問題であった。問3は物語の展開に合わせて選択肢を時系列に並べ替える問題で、物語文ならではの読み取りを促す問いであったが、完答問題であったことから、他の問いと比べて難しかったと考えられる。

第4問は、教師からのコメントに基づいて英作文を修正するという場面設定の設問であった。問2は、段落のまとめとして不適切な一文を、より適切なもの書き換えるという問いで、段落全体の要点を的確に捉えた上で、それを英語で適切に表現することが求められた。学校現場への波及効果の観点からも、引き続き「書くこと」の指導を意識した問題を出題していきたい。

第5問は、複数の文章から読み取った情報を比較したり整理したりする力が求められた。問5については、二つのEメールを関連付けて読み取りながら、意見の相違を理解する問題であり、他の問題に比べて難しかったと考えられる。

第6問は長めの物語文を読み、その概要及び展開を理解する力を問う問題であった。問1は、物語全体を通して登場人物の性格（人物像）を読み取らせる問題で、物語文理解の中核的な能力を問うものであった。問2は、物語中の出来事を時系列順に整理する設問で、不要な選択肢一つを排

除した上で、残りの四つの選択肢を正しい順番に並べることが求められたため、比較的難易度が高かった。

第7問は、論説文を読み、その内容を発表スライドの形式に整理しながら理解する問題であった。

問4は、バクテリアが蚊の成長を抑制する手順を理解する問題であり、本文にはやや難しい語彙が含まれていたが、説明が明瞭であったため、比較的容易に解答できたと考えられる。

第8問において、問1と問2は各資料に書かれた内容を読み取る設問で、比較的容易であった。一方、問4と問5は、図表を含む資料を読み取り、その情報を自分の立場と関連付けた上で、的確にまとめている文を選択する問題であり、難易度がやや高かった。総じて、読むことと書くことを統合的に取り扱うことを意図した出題であり、妥当な問題であったと言える。

### 3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

各方面からはおおむね肯定的なコメントが得られた。

まず、高等学校教科担当教員からは、「日常的な話題から科学的な話題や社会的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて英語を運用する力を測ることができるように配慮されている」など、高い評価を得た。さらに、「高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容となっている」との評価から、現行の学習指導要領が掲げる方向性に沿ったものになっているとともに、高等学校の英語授業への良い波及効果が期待できる。

各設問についても、おおむね高い評価を頂いた。例えば第1問の間2については「行程中の具体的な語を抽象化することを求めており、思考力を問う良問であった」との評価を得た。また、第8問の間3については、「様々な立場の人物によるそれぞれの意見から関連する語を読み取り、言い換えられた語を判断する必要がある、思考力が問われている」とのコメントを得た。いずれも、高等学校の授業等における英語での言語活動を通じて育成された知識・技能、思考力・判断力・表現力等を問う、出題の方針に合致するものと言える。また、第3問や第5問については、「背景知識に依存せず注意深く読むことが求められた」とのコメントを得た。受験者にとってなじみのある話題を取り扱う際には、既存の知識や常識で解ける問題を避け、英文の正確な理解を求める設問となるよう、今後も引き続き留意したい。

一方、改善に向けての指摘も頂いた。例えば、第4問については、高校生が書いた作文を模した英文を読ませているが、その論旨や全体の構成について、十分に整理されていない部分が見られるとの指摘があった。提案をいただいた「設問にしないコメントを付すこと」等も含め、今後さらに検討したい。また、第5問においては、留学前の留学生とのEメールのやり取りという場面設定と、日本とイギリスの文化の違いを比較するという話題について、「日本にこれからやって来る留学生とのやり取りという場面設定に対して、題材はやや不自然に感じられた」という指摘があった。引き続き、多様な場面設定や話題を取り扱いながら、英文の内容や目的、場面に応じた必然性のある設問となるように工夫を重ねたい。

また、教育研究団体からは、試験全体について、「様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容」であり、「学習指導要領における目標を反映した出題となっている」と、高い評価を頂いた。さらに、「受験者が身に付けた力を十分に発揮できる良問も多い」、「新しい学習指導要領のねらいを反映した問題形式が出題されるなど、改善への高い意識を感じさせるものであった」とのコメントが寄せられたことから、出題意図が十分に反映された試験

であったと言える。一方で「技能統合的な理解を求める問題や、発信技能をより育成するための問題においては、その試みが十分に目的を達せられたかにはまだ議論の余地がある」との指摘や、「本試験と追・再試験の形式の相違について、（中略）引き続きご留意いただきたい」とのコメントも寄せられた。引き続き、出題意図に即した設問となるように工夫を凝らすとともに、両試験の均質性・公平性に引き続き留意していきたい。

各設問についても、おおむね高い評価を頂いた。例えば、第1問の間1について、「受験者にとっても取り組みやすい問題で、最初の問題はこういったレベルから始まることが望ましい」というコメントが寄せられたが、引き続き同様の配慮を続けていきたい。また、第2問の間1について、「局所的な英文読解を求めるのではなく、概要や要点の把握を求めるこの種の問題は今後も出題していただきたい」とのコメントが寄せられた。引き続き、受験者及び教育現場への波及効果を意識した出題をしていきたい。第6問の本文については、「展開に無理がなく、かつ内容の充実した問題文」とのコメントがあった。問1の登場人物の性格を問う問題や、問5の主人公の学びとなったものを答えさせる問題は、物語全体の流れを理解した上で推論的な理解を求める問題であり、物語文ならではの設問である。今回の評価を今後の問題作成に生かしていきたい。第7問と第8問については、文章の読解や情報の整理にある程度の時間を要する問題であったが、受験者の力を測る良問であったとのコメントが寄せられたことから、共通テストの後半の問題として適切なレベル、内容であったと言える。

一方、設問によっては改善の余地があるという指摘もあった。例えば第4問の間1については、「実質的には読解力を問うていると見ることもできる」、「標準的な読解問題でもよく見られる」、「この種の設問でそれ（技能を統合させて英語の力を測ろうとすること）が実現できているとは言い難い」との指摘があった。第4問は「読むこと」と「書くこと」の統合をねらいとした問題であり、文章を理解した上で、適当な文に書き換えたり、補ったりする力を測定しようとしている。発信技能の育成につながるような効果的な設問の設定について引き続き検討したい。

#### 4 まとめ

『英語（リーディング）』は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であるため、大問ごとにCEFRのA1からB1相当までの難易度を段階的に設定し、多様な受験者に対応できる問題構成としている。今年度の共通テストではこのレベル設定を維持しつつ、昨年度に引き続き、とりわけ「書くこと」の指導を意識した新傾向の問題が出題された。出題形式が昨年度と共通していたこともあり、本試験と同様に特に混乱は見られなかった。

今後の高等学校教育においては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力の育成が一層求められる。そのため、複数の技能を統合した言語活動の充実が期待される。こうした学習を通して英語力を高めた受験者たちが、自らの力を十分に発揮できるよう、引き続き適切な問題の作成に努めていきたい。